



暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが



と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控室 TEL740-1111 (内線4020)

直通FAX759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



このままでは断らない救急から「断らざるを得ない救急」へ 安心の医療を求めて、三田市で「市民病院残せ」と大集会

4月2日、三田市総合福祉センターで、「市民病院残して安心の医療を三田で！住民投票実現で市民病院をまもろう」と集会が開催され、170名を超える方が参加、私(黒田)も出席させて頂きました。

医療制度に詳しく、国・公立病院統廃合の問題などについて、全国で活躍中、衆議院厚生労働委員会参考人として発言するなど住民の立場にたつ本田宏先生(NPO医療制度研究会副理事長、弘前大学医学部講師・日本医学会連合労働環境検討委員会委員・前埼玉県済生会栗橋病院院長補佐 外科医)の講演「このままでは断らない救急から断らざるを得ない救急へ」が行われました。(裏面に要旨を記載)

私(黒田)は、川西市立病院の指定管理者制度導入と統廃合によるベッド削減の実態を報告させて頂きました。

三田市では、「三田市民病院をまもる会」が、「三田市民病院を三田市からなくして神戸市北区に新病院をつくる」という市の方針に対して賛否を問う住民投票を実施するための条例制定を求める署名活動が行われています。また、三田市長選挙(7月)に会から擁立する方の紹介も行われました。

病棟閉鎖と看護師配置の緩和

私(黒田)は、川西市立病院が指定管理者制度を導入した2019(R元年)度、5月から4階北病棟が閉鎖になったこと(翌年11月再開)や患者7人に1人の看護師配置だった7対1看護体制から10人に1人の10対1の看護体制に緩和されたこと(R3年10月回復)などの実態を報告しました。

指定管理者制度に移行する時の職

員が全員、分限解雇によって、医師・看護師などの職員確保が難しいことは全国的な事例をみても明らかであったため、ずっと市側を追及してきましたが、大丈夫の一点張りであったこと。移行した途端に病棟閉鎖・看護師配置基準の見直しが行われたことや指定管理者法人に移行した職員への給与差額補填を4年間実施(R3年度までの補填額3年間で6億4076万9867円)など報告しました。

元市の病院職員だった方々は、全員解雇されるため、市の事務職への異動が指定管理者職員になるかの選択を迫られましたから、大変なことを余儀なくされました。

この間、お伝えしているように、指定管理者職員になった方は、激減しています。(裏面に最新情報掲載)

救急の受入れ激減

市直営だった時の救急受入れ件数は、75.6%だったものが、68.6%に落ちこみ、毎年低下、今年度やっと同水準に戻っています。(たんぽぽだより245号でお伝えした数字、コロナ禍の影響もあります)

出産費用、平均8万円の値上げ

指定管理者制度の導入で、危惧していたのは病院職員の確保だけでなく、経営優先になるのではないかとということでしたが、病院 出産時の収支不足解消のため、出産費用が平均51万円(8万円の値上げ)となりました。

従来の川西病院では、出産一時金42万円に合うように、公的医療の責任を果たしてきました。また、電話通話料がナビダイヤル(0570)からはじまる電話になり、携帯からかけると30秒ごとに99円かかるなど、経営主導になっていると言わざるを得ないことなど、改善を求め続けていることを伝えました。

158ベッド削減、市内搬送率戻らず

昨年9月から、市立総合医療センターが本格稼働しましたが、市内の急病ベッドを158床減らした影響で、救急車の市内での搬送率が、指定管理者制度導入前(2018年)72.5%が、2022年(暫定値)は66.4%。3割以上の患者さんが市外へ搬送されているという実態です。

また、搬送困難症例数は、2022年は、2018年指定管理者制度導入前比において、救急車の病院への問合せが4回以上は4.7倍。救急車の現場活動時間が30分以上かかっているが2.6倍。両方ともというのが4.9倍にもなっています。



市立総合医療センターでの救急受入れの状況、川西市内での救急受入れの状況は、市当局が事前に言っていた通りにはなっていません。新しい病院は、個室なので喜ばれていること、利用者や患者の声を聴いて改善されていることもありますが、元々の市の基本構想で約束されていた北部医療の確保はことごとく反故となり、この間の「コロナ禍では、発熱時に受入れてもらえなかったことや救急などの受入れ現状を見れば、「市民が安心・信頼できる」医療が整っているとは言えない状況にあります。今後もしっかりと注視していかなければなりません。

市内・市外搬送率の推移

※(指定管理)	市内搬送率	市外搬送率
2022年(暫定値)	66.4%	33.6%
2021年(指定)	68.6%	31.4%
2020年(指定)	71.0%	29.0%
2019年(指定)	69.3%	30.7%
2018年(直営)	72.5%	27.5%

市消防担当より資料(年毎の数字です)

5月8日から「コロナ」が第5類に引き下げられます。旧病院跡地の計画や北部のまちづくり計画がこれから具体化されていきます。安心して住み続けることができるまちづくりを皆さんと一緒に声をあげていきたい、諦めずに行動していきたいと考えています。(裏面にづく...)。

兵庫県・高齢者の補聴器補助 補聴器活用調査(追加募集) 4/26(水)から定員50名

昨年、たんぽぽだより233号でお知らせしていた、兵庫県の「高齢者の補聴器活用調査(購入補助額上限2万円)」が、今年度追加募集(50名)されます。

4月26日から募集開始、50名になれば受付終了とのことですが、ぜひ、兵庫県ホームページに詳細(65歳以上など)が掲載されていますので、ご覧ください。

私たち日本共産党は、兵庫県の実施内容の拡大や川西市でも連携すること、補助金増額を求めています。

耳の聴こえを補助することで、引きこもりにならずに社会参加ができる、認知症予防にもなるとされています。

